

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-296661

(P2005-296661A)

(43) 公開日 平成17年10月27日(2005.10.27)

(51) Int.Cl.⁷

A63F 7/02
A63F 5/04
G02F 1/13
G09F 9/00

F I

A 6 3 F 7/02 3 2 O
 A 6 3 F 5/04 5 1 1 D
 A 6 3 F 5/04 5 1 1 F
 G 0 2 F 1/13 5 0 5
 G 0 9 F 9/00 3 5 1

テーマコード (参考)

2 C 0 8 8
 2 H 0 8 8
 5 G 4 3 5

審査請求 有 請求項の数 9 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号 特願2005-113565 (P2005-113565)
 (22) 出願日 平成17年4月11日 (2005.4.11)
 (62) 分割の表示 特願2003-92531 (P2003-92531)
 の分割
 原出願日 平成15年3月28日 (2003.3.28)

(71) 出願人 598098526
 アルゼ株式会社
 東京都江東区有明3丁目1番地25
 (74) 代理人 100083806
 弁理士 三好 秀和
 (74) 代理人 100100712
 弁理士 岩▲崎▼ 幸邦
 (74) 代理人 100087365
 弁理士 栗原 彰
 (74) 代理人 100100929
 弁理士 川又 澄雄
 (74) 代理人 100095500
 弁理士 伊藤 正和
 (74) 代理人 100101247
 弁理士 高橋 俊一

最終頁に続く

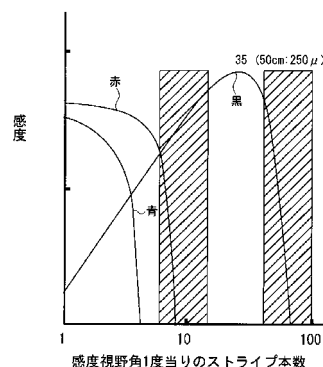
(54) 【発明の名称】 画像表示装置及び遊技機

(57) 【要約】

【課題】 スロットマシンやパチンコ機等の遊技機に備えられる表示装置において、画像データを増大させることなく、表示装置の画素を精細化し、画質の向上を図る。

【解決手段】 遊技機の遊技面にオーバーラップして備えられる透過性の画像表示装置であって、所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極を各種一つずつ配列して形成される画素ユニットのピッチPmmと、当該表示装置から通常遊技姿勢における遊技者の目までの距離dmmとが、 $P < \tan(\pi/180/35) \times d$ の関係を満たすと共に、前記距離dが、150mm～800mmであることを特徴とする。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技機の遊技面にオーバーラップして備えられる透過性の画像表示装置であって、
 所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極を各種一つずつ配列して形成される画素
 ユニットのピッチ P mm と、当該表示装置から通常遊技姿勢における遊技者の目までの距
 離 d mm とが、

$$P < \tan(\pi / 180 / 35) \times d$$

の関係を満たすと共に、

前記距離 d が、150 mm ～ 800 mm であることを特徴とする画像表示装置。

【請求項 2】

10

スロットマシンやパチンコ機等の遊技機に備えられる表示装置であって、

所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極を各種一つずつ配列して形成される画素
 ユニットのピッチ P と、当該表示装置から通常遊技姿勢における遊技者までの距離 d と、
 補正值 α とが、

$$P = \tan(\pi / 180 / 35) \times d / 2 \times (1 + \alpha)$$

の関係を満たし、

前記補正值 α は、 ± 0.2 である

ことを特徴とする画像表示装置。

【請求項 3】

前記画素電極は、 x y 平面上にマトリクス状に配置されるとともに、 y 方向には同一色
 が配置され、 x 方向には同一パターンを繰り返して配置され、ストライプ状をなしている
 ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の画像表示装置。 20

【請求項 4】

隣接する一对の前記画素ユニットにより一画素を構成し、

一画素当たりの情報信号を、前記一对の画素ユニットそれぞれに含まれる同一色の画素
 電極に、同タイミングで供給することを特徴とする請求項 1 乃至 3 に記載の画像表示装置
 。

【請求項 5】

スロットマシンやパチンコ機等の遊技機であって、

所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極がマトリクス状に配置されて構成される
 表示部を備え、 30

前記表示部では、所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極を各種一つずつ配列し
 て形成される画素ユニットのピッチ P と、当該表示装置と遊技者間の距離 d とが

$$P < \tan(\pi / 180 / 35) \times d$$

の関係を満たす

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 6】

スロットマシンやパチンコ機等の遊技機であって、

所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極がマトリクス状に配置されて構成される
 表示部を備え、 40

前記表示部では、

所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極を各種一つずつ配列して形成される画素
 ユニットのピッチ P と、当該表示装置と遊技者間の距離 d と、補正值 α とが

$$P = \tan(\pi / 180 / 35) \times d / 2 \times (1 + \alpha)$$

の関係を満たし、

前記補正值 α は、 ± 0.2 である

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 7】

前記画素電極は、 x y 平面上にマトリクス状に配置されるとともに、 y 方向には同一色
 が配置され、 x 方向には同一パターンを繰り返して配置され、ストライプ状をなしている 50

ことを特徴とする請求項 5 又は 6 に記載の遊技機。

【請求項 8】

前記表示部は、遊技面に設けられた高透過性の液晶ディスプレイであることを特徴とする請求項 5 乃至 7 に記載の遊技機。

【請求項 9】

隣接する一对の前記画素ユニットにより一画素を構成し、
一画素当たりの情報信号を、前記一对の画素ユニットそれぞれに含まれる同一色の画素電極に、同タイミングで供給することを特徴とする請求項 5 乃至 8 に記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本発明は、スロットマシンやパチンコ機等の遊技機に備えられる表示装置に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、スロットマシンやパチンコ等の遊技機市場では、ゲーム性を構成する重要な要素の 1 つとして映像が挙げられている。従来、遊技機の映像においては、7 インチ以下の液晶モニターやドット表示装置を搭載することが主流となっている。このような表示装置を備えた遊技機によれば、遊技機におけるゲームの進行に応じた映像を表示することにより、ゲームの進行状態を明確に表示したり、遊技者の期待感を喚起させたり、入賞状態を効果的に演出したりすることが可能となる（例えば、特許文献 1 参照）。

20

【0003】

上記表示装置、及び表示装置を備えた遊技機において、その表示画面は面積が大きいほど高い演出効果を期待することができる一方、表示装置に表示される画像は、画素が精細であるほど美しいうえ、表示可能な情報量が大きいといえる。

【特許文献 1】特開 2001-340518 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、液晶モニターでは、液晶モニターの面積を大きくするに伴って、画素も大きくなるが、画素が大きくなるほど、画像が粗くなり、画像の解像度が低下するという問題がある。その一方で、画素を精細にするほど、液晶駆動素子の開口率（1 つの画素の総面積と、表示画面において駆動素子が実効的に表示に寄与している面積との比）が低くなり、画面が暗くなり見づらくなるという問題が生じる。また、遊技者は、ゲームの展開によってその遊技姿勢を変化させるため、その遊技姿勢を考慮した画像の精細化が必要となる。

30

【0005】

そこで、本発明は、以上の問題点に鑑みてなされたもので、スロットマシンやパチンコ機等の遊技機に備えられる表示装置において、遊技者の遊技姿勢の変化を考慮しつつ、表示装置の画素を精細化し、画質の向上を図ることのできる画像表示装置及び遊技機を提供するものである。

40

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決するために、本発明は、遊技機の遊技面にオーバーラップして備えられる透過性の画像表示装置であって、所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極を各種一つずつ配列して形成される画素ユニットのピッチ P mm と、当該表示装置から通常遊技姿勢における遊技者の目までの距離 d mm とが、 $P < \tan(\pi / 180 / 35) \times d$ の関係を満たすと共に、前記距離 d が、150 mm ～ 800 mm であることを特徴とする。

【0007】

このような本発明によれば、遊技機に備えられる表示装置において、遊技者の通常遊技

50

姿勢に応じた画素ユニットのピッチを設定するため、通常遊技姿勢における必要最低限の範囲で、表示装置における画素線を目立ち難くすることができ、所定の開口率を維持しつつ、好適な画像表示を実現することができる。

【0008】

また、本発明は、スロットマシンやパチンコ機等の遊技機に備えられる表示装置であって、所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極を各種一つずつ配列して形成される画素ユニットのピッチ P と、当該表示装置から通常遊技姿勢における遊技者までの距離 d と、補正值 α とが $P = \tan(\pi / 180 / 35) \times d / 2 \times (1 + \alpha)$ の関係を満たし、補正值 α は、 ± 0.2 であることを特徴とする。

【0009】

このような本発明によれば、遊技者の遊技姿勢の変化を考慮しつつ、画素線を目立ちを低減させることができるとともに、画素を必要以上に精細化することによる、液晶駆動素子の開口率が低下するのを回避し、画面が暗くなり見づらくなるという問題を低減することができる。

【0010】

上記発明においては、画素電極は、 xy 平面上にマトリクス状に配置されるとともに、 y 方向には同一色が配置され、 x 方向には同一パターンを繰り返して配置され、ストライプ状をなしていることが好ましい。この場合には、同一色が y 方向に一例に配列されることとなるため、画素電極を他の配列形態と比較して、斜め線を表示した際の画像の滲みを低減することができ、画像の品質を向上させることが可能となる。

【0011】

上記発明においては、隣接する一对の画素ユニットにより一画素を構成し、一画素当たりの情報信号を、一对の画素ユニットそれぞれに含まれる同一色の画素電極に、同タイミングで供給することが好ましい。この場合には、既存の画像データの画素分のデータを一对の画素電極で表示することにより、既存の画像データのデータ量を増大させることなく画素ユニットのピッチを従来の約 $1/2$ とすることが可能となり、上記関係式を満たしつつ、画素の精細化を図ることができ、遊技機におけるゲームの進行に応じた映像を効果的に表示することが可能となる。

【0012】

本発明は、スロットマシンやパチンコ機等の遊技機であって、所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極がマトリクス状に配置されて構成される表示部を備え、表示部では、所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極を各種一つずつ配列して形成される画素ユニットのピッチ P と、当該表示装置と遊技者間の距離 d とが $P < \tan(\pi / 180 / 35) \times d$ の関係を満たすことを特徴とする。

【0013】

このような本発明によれば、遊技者の通常遊技姿勢を考慮して、画素ユニットのピッチを設定するため、表示装置における画素線を目立ち難くすることができ、好適な画像表示を実現することができる。

【0014】

本発明は、スロットマシンやパチンコ機等の遊技機であって、所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極がマトリクス状に配置されて構成される表示部を備え、表示部では、所定の色をそれぞれ表示する複数種の画素電極を各種一つずつ配列して形成される画素ユニットのピッチ P と、当該表示装置と遊技者間の距離 d と、補正值 α とが $P = \tan(\pi / 180 / 35) \times d / 2 \times (1 + \alpha)$ の関係を満たし、補正值 α は、 ± 0.2 であることを特徴とする。

【0015】

このような本発明によれば、遊技者の遊技姿勢の変化を考慮しつつ、画素線を目立ちを低減させることができるとともに、画素を必要以上に精細化することによる、液晶駆動素子の開口率が低下するのを回避し、画面が暗くなり見づらくなるという問題を低減することができる。

10

20

30

40

50

【0016】

上記発明においては、画素電極は、x y 平面上にマトリクス状に配置されるとともに、y 方向には同一色が配置され、x 方向には同一パターンを繰り返して配置され、ストライプ状をなしていることが好ましい。この場合には、同一色が y 方向に一行に配列されることとなるため、画素電極を他の配列形態と比較して、斜め線を表示した際の画像の滲みを低減することができ、画像の品質を向上させることが可能となる。

【0017】

上記発明においては、表示部は、遊技面に設けられた高透過性の液晶ディスプレイであることが好ましい。この場合には、上述した精細な画像を、スロットマシンのリール部やパチンコ機の遊技板等の遊技面上に、オーバーラップさせて表示することが可能となり、より効果的に表現力の向上を図ることができる。

10

【0018】

上記発明においては、隣接する一对の画素ユニットにより一画素を構成し、一画素当たりの情報信号を、一对の画素ユニットそれぞれに含まれる同一色の画素電極に、同タイミングで供給することが好ましい。この場合には、既存の画像データの一画素分のデータを一对の画素電極で表示することにより、既存の画像データのデータ量を増大させることなく画素ユニットのピッチを従来の $1/2$ とすることが可能となり、上記関係式を満たしつつ、画素の精細化を図ることができ、遊技機におけるゲームの進行に応じた映像を効果的に表示することが可能となる。

【発明の効果】

20

【0019】

以上説明したように、本発明の画像表示装置及び遊技機によれば、スロットマシンやパチンコ機等の遊技機に備えられる表示装置において、遊技者の遊技姿勢の変化を考慮しつつ、表示装置の画素を精細化し、画質の向上を図ることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0020】

以下、本発明の実施形態に係る表示装置及びスロットマシン遊技機について、図を用いて詳細に説明する。

【0021】

〔第1実施形態〕

30

(表示装置の構成)

図1は、第1実施形態に係る表示装置の表示画面を模式的に示す説明図である。なお、同図においては、 2×2 の4画素のみを拡大して示す。

【0022】

同図に示すように、表示画面は、R (赤)、G (緑)、B (青) の三色をそれぞれ表示する複数種の画素電極 R、G、B が、x y 平面上にマトリクス状に配置されるとともに、y 方向には同一色が配置され、x 方向には同一パターン (R、G、B) を繰り返して配置し、ストライプ状をなしている。また、この表示画面では、画素電極 R、G、B を各種一つずつ配列して画素ユニットを形成し、各画素ユニットにより一画素を構成している。

【0023】

40

この表示画面の具体的な構成を図2に示す。同図に示すように、当該表示装置では、液晶パネル基板上において図面中水平方向 (図1中 x 方向に相当) に配線され、走査信号ドライバ11に接続されたゲート線 G1、G2、…と、図面中垂直方向 (図1における y 方向に相当) に配線され、駆動制御手段である情報信号ドライバ10に接続された情報信号線 (ソース線) DR、DG、DB…が互いに絶縁された状態で直交するように設けられており、その各交点において、アクティブ素子 (スイッチング素子) である薄膜トランジスタ (TFT) を介して、画素電極に接続されている。すなわち、ゲート線 G1、G2、…は TFT のゲート電極に接続され、情報信号線 DR、DG、DB…は TFT のソース電極に接続され、画素電極は、TFT のドレイン電極に接続されている。

【0024】

50

そして、本実施形態では、画素ユニットのピッチ P (mm) と、当該スロットマシン 1 から通常遊技姿勢における遊技者までの距離 d (mm) とが、 $P < \tan(\pi / 180 / 35) \times d \cdots (1)$

の関係を満たしている。

【0025】

これについて図 3 を用いて、詳述する。図 3 は、遊技者の画素に対する感度を縦軸にとり、遊技者の視野角 1 度当たりの画素線の本数 (本/deg) (以下、「ストライプ本数」とする。) を横軸に対数表示したグラフ図である。なお、このストライプ本数は、1 画素線毎に白色と任意の有色 (例えば白色と黒色、白色と青色、白色と赤色など) とを交互にストライプ状に表示した場合の、有色 (黒色、青色、赤色) の画素線の本数を意味する。

【0026】

同図に示すように、画素線が青や赤であるときは、ストライプ本数が 5 ～ 8.5 程度で感度が急激に低下し、画素線が目立ちにくくなり、画素線が黒であるときは、ストライプ本数が 35 になるまで感度が上昇し画素線が目立つようになり、ストライプ本数が 35 となったときをピークに、その後急激に感度が低下する。

【0027】

本実施形態では、この特性を反映させて、画素線のストライプ本数が 35 (本/deg) を超えるように、すなわち、画素ユニットのピッチ P が所定の値よりも小さくなるように、上記式 (1) の関係に従って設定する。ここで、通常遊技姿勢における表示装置から遊技者までの距離 d は、遊技機の種類によって異なるが、その想定値は、パチンコ機で 300 mm ～ 400 mm であり、スロットマシンで 400 mm ～ 500 mm としている。この想定値と、上記 P の値との関係を、表 1 に示す。

【表 1】

ストライプ本数 [本/deg]	tan	距離 d [mm]					
		150	200	300	400	500	800
10	0.001745	0.262	0.349	0.524	0.698	0.873	1.396
20	0.000873	0.131	0.175	0.262	0.349	0.436	0.698
30	0.000582	0.087	0.116	0.175	0.233	0.291	0.465
35	0.000499	0.075	0.100	0.150	0.199	0.249	0.399
40	0.000436	0.065	0.087	0.131	0.175	0.218	0.349
45	0.000388	0.058	0.078	0.116	0.155	0.194	0.310
50	0.000349	0.052	0.070	0.105	0.140	0.175	0.279

表内の数値は、 $\tan$ と距離 d から求められるピッチ P [mm] の値

【0028】

なお、表 1 において、点線で囲んだ範囲が、上述した画素線のストライプ本数が 35 に対応するピッチ P の値である。上記式 (1) を満たす値は、表 1 におけるハッチング箇所下方の範囲、すなわち、ストライプ本数が 40 以上となる範囲である。

【0029】

(遊技機の構成)

以上説明した表示装置を備えた遊技機について説明する。本実施形態では、遊技機としてスロットマシンに適用した場合を例に説明する。図 4 は、本実施形態に係るスロットマシン 1 を示す斜視図及び正面図である。

【0030】

図 4 に示すように、スロットマシン 1 は、本体正面に遊技面 2 が備えられており、この遊技面 2 において、図中、点線で示す領域には、上述した表示装置である透明液晶ディスプレイ 3 が設けられている。この透明液晶ディスプレイ 3 には、スロットマシン 1 の本体内に設けられたリールの外周面上に描かれている図柄を視認可能とするためにリール表示窓 3a が形成されている。また、遊技面 2 には、透明液晶ディスプレイ 3 以外の領域にもランプ、セグメント表示器等の各種表示部が設けられている。また、スロットマシン 1 は、本体前面に、スピーカ 4、ランプ 5、操作スイッチ部 6、メダル受け皿 1a を備えてい

る。透明液晶ディスプレイ 3 は、高透過性の液晶ディスプレイであり、液晶に電圧を印加する電極等が、透明な薄膜状の導電物質（例えば、インジウムと錫の共合酸化物など）で形成されている。

【0031】

図 5 は、スロットマシン 1 内部に備えられた制御部 7 の構成を示すブロック図である。同図に示すように、スロットマシン 1 は、当該スロットマシン 1 における遊技処理動作を制御する主制御回路 7 1 と、主制御回路 7 1 に電氣的に接続する周辺装置（アクチュエータ等）と、主制御回路 7 1 から送信される制御指令に基づいて透明液晶ディスプレイ 3 及びスピーカ 4 を制御する副制御回路 7 2 とを備えている。

【0032】

主制御回路 7 1 は、回路基板上に配置された CPU を主たる構成要素とし、これに、入賞を決定する確率抽選処理を行う際の乱数サンプリングを実行する回路を加えて構成されている。CPU は、内部当選役決定手段及び入賞判定手段としての機能を果たし、予め設定されたプログラムに従って制御動作を行うとともに、記憶手段である ROM 及び RAM を備えている。この記憶手段（ROM 及び RAM）には、スタート操作をする毎に行われる乱数サンプリングの判定に用いられるデータや、副制御回路 7 2 へ送信するための各種制御指令（コマンド）が格納されている。

【0033】

上記主制御回路 7 1 からの制御信号により動作が制御される主要なアクチュエータとしては、図 4 に示した、ランプ 5 や、遊技面 2 の各種表示部、コインを収納し所定枚数のコインをメダル受け皿 1 a に払出すホッパー（払い出しのための駆動部を含む）、リールを回転駆動するステッピングモータ等がある。これらの各アクチュエータは、それぞれに設けられた駆動回路を介して、前記主制御回路 7 1 の出力部に接続され、それぞれ CPU から出力される駆動指令などの制御信号を受けて、動作が制御される。

【0034】

また、主制御回路 7 1 が制御指令を発生するために必要な入力信号を発生する主な入力信号発生手段としては、スロットマシン 1 の前面に設けられた操作スイッチ部 6 や、投入コインセンサ、リールの動作状態を検知する各種センサが設けられている。操作スイッチ部 6 は、ゲームのスタート、各リールの停止操作を検出し、投入コインセンサは、コイン投入口に投入されたコインを検出する。リールの各種センサは、リール位置を識別するための信号を主制御回路 7 1 へ供給する。

【0035】

そして、主制御回路 7 1 では、リールの回転位置とリール外周面上に描かれた図柄とを対応付けるために、図柄テーブルが、ROM 内に格納されている。この図柄テーブルでは、各リールの一定の回転ピッチ毎に順次付与されるコードナンバーと、それぞれのコードナンバー毎に対応して設けられた図柄の種類を示す図柄コードとが対応付けられている。さらに、ROM 内には、入賞図柄組合せテーブルが格納されている。この入賞図柄組合せテーブルでは、入賞となる図柄の組合せと、入賞のコイン配当枚数と、その入賞を表す入賞判定コードとが対応付けられている。上記の入賞図柄組合せテーブルは、全リールの停止時において入賞確認を行うときに参照される。

【0036】

副制御回路 7 2 は、主制御回路 7 1 からの制御指令（コマンド）に基づいて透明液晶ディスプレイ 3 の表示制御及びスピーカ 4 からの音の出力制御を行う。この副制御回路 7 2 は、主制御回路 7 1 を構成する回路基板とは別の回路基板上に構成され、マイクロコンピュータ（以下「サブマイクロコンピュータ」という）7 3 を主たる構成要素とし、透明液晶ディスプレイ 3 の表示制御手段としての画像制御回路 8 1、スピーカ 4 により出音される音を制御する音源 IC 7 8、及び増幅器としてのパワーアンプ 7 9 で構成されている。

【0037】

上記、サブマイクロコンピュータ 7 3 は、主制御回路 7 1 から送信された制御指令に従って制御動作を行うサブ CPU 7 4 と、記憶手段としてのプログラム ROM 7 5 と、ワー

10

20

30

40

50

クRAM76とを含む。副制御回路72は、サブCPU74の動作プログラム上で乱数サンプリングを実行するように構成されている。プログラムROM75は、サブCPU74で実行する制御プログラムを格納する。ワークRAM76は、上記制御プログラムをサブCPU74で実行するときの一時記憶手段として機能する。

【0038】

画像制御回路81は、画像制御CPU82、画像制御ワークRAM83、画像制御プログラムROM84、画像ROM86、ビデオRAM87及び画像制御IC88で構成される。画像制御CPU82は、サブマイクロコンピュータ73で設定されたパラメータに基づき、画像制御プログラムROM84内に格納する画像制御プログラムに従って透明液晶ディスプレイ3での表示内容を決定する。画像制御プログラムROM84は、透明液晶ディスプレイ3での表示に関する画像制御プログラムや各種選択テーブルを格納する。 10

【0039】

画像制御ワークRAM83は、上記画像制御プログラムを画像制御CPU82で実行するときの一時記憶手段として機能する。画像制御IC88は、画像制御CPU82で決定された表示内容に応じた画像を形成し、透明液晶ディスプレイ3に出力する。画像ROM86は、画像を形成するためのドットデータを格納する。ビデオRAM87は、画像制御IC88で画像を形成するときの一時記憶手段として機能する。

【0040】

そして、このような構成を有するスロットマシン1では、遊技者の操作を操作スイッチ部6で検知し、操作スイッチ部6からの操作信号に従って、制御部7により、各アクチュエータを駆動させ、ゲームをスタートする。次いで、遊技者の停止操作に応じて、各リールを順次停止させていく。そして、全リールが停止すると、主制御回路71において、ROM内の入賞図柄組合せテーブルを参照し、リール表示窓3aに表示されている図柄の組合せのうち、入賞図柄組合せがあるか否かを判断して、入賞となる図柄組合せがあった場合は、ホッパーからその入賞に対応する配当枚数のメダルをメダル受け皿1aに払い出す。また、主制御回路71は、例えば、確率抽選処理の結果得られた内部当選役、遊技者の停止操作、入賞した役の種類などに応じた制御指令を副制御回路72に対して適宜出力する。 20

【0041】

副制御回路72では、主制御回路71からの制御指令に基づいて透明液晶ディスプレイ3の表示制御及びスピーカ4からの音の出力制御を行う。すなわち、画像制御回路81の画像制御CPU82において、サブマイクロコンピュータ73で設定されたパラメータに基づき、画像制御プログラムROM84内に格納する画像制御プログラムに従って透明液晶ディスプレイ3での表示内容を決定し、画像制御IC88において、画像制御CPU82で決定された表示内容に応じた画像データを形成し、透明液晶ディスプレイ3に出力する。 30

【0042】

透明液晶ディスプレイ3では、画像制御CPU82で形成された画像データに従って、走査信号ドライバ11によりゲート線G1、G2、…が順次に走査選択してゲート電圧を供給し、このゲート線の走査選択に同期して、情報信号ドライバ10により一画素当たりの情報信号電圧を、一対の画素ユニットそれぞれに含まれる各画素電極R、G、Bに対し印加する。この結果、遊技面2では、リール表示窓3aから視認されるリールの図柄にオーバーラップされるように、画像が表示されることとなる。 40

【0043】

(作用・効果)

以上説明した本実施形態に係る表示装置3及びスロットマシン1によれば、遊技者の通常遊技姿勢を考慮して、画素ユニットのピッチを設定し、表示装置における画素線を目立ち難くすることができ、好適な画像表示を実現することができる。

【0044】

(変更例)

なお、この実施形態では、画素ユニットのピッチ P の値が、上記式 (1) を満たすように設定したが、補正值 α を、 $\pm 0.1 \sim 0.2$ とし、画素ユニットのピッチ P (mm) と、距離 d (mm) とが、

$$P = t \tan(\pi / 180 / 35) \times d / 2 \times (1 + \alpha) \cdots (2)$$

の関係を満たすように上記 P の値を設定してもよい。

【0045】

これについて詳述すると、通常使用状態における距離 d は、上述したように、300 mm ~ 500 mm であるが、遊技者の遊技姿勢は、遊技者により、或いは遊技状況により変化し、想定距離 d の約 1/2 まで遊技機に接近することが考えられる。従って、遊技機に接近した場合、画素が目立つようになるため、本変更例では、上式 (2) のように、想定距離 d を 1/2 とする。

【0046】

また、ストライプ本数を 35 を超えるように設定すれば、画素線が目立たなくなるが、必要以上にピッチ P の値を小さくしても、ある程度以下になると人間の眼では視認できなくなるため、必要以上にストライプ本数を多くするのは、製造コスト等からみても妥当ではない。さらには、図 3 に示すように、ストライプ本数が 35 本以下であっても、青や赤の画素線のピーク値 (約 5 ~ 8) 以上であれば、画素線は目立たない。従って、本変更例では、補正值 α を用いることにより、ストライプ本数が図 3 中のハッチングで示す範囲となるようにする。

【0047】

このような変更例に係る表示装置及び遊技機によれば、遊技者の遊技姿勢の変化を考慮しつつ、画素線の目立ちを低減させることができるとともに、画素を必要以上に精細化することによる、液晶駆動素子の開口率が低くなるのを回避し、画面が暗くなり見づらくなるという問題をも低減することができる。

【0048】

また、本実施形態では、一对の画素ユニットによって形成される画素をストライプ状に配置した場合を例に説明したが、本発明は、これに限定されるものではなく、図 6 に示すように、モザイク配列 (同図 (a))、デルタ配列 (同図 (b)) 或いは 2 G スクエア配列 (同図 (c)) にも適用することができる。これらの場合においても、一画素当たりの情報信号は、一对の画素ユニット a, b のそれぞれに含まれる同一色の画素電極に、同タイミングで供給する。

【0049】

[第 2 実施形態]

次いで、本発明の第 2 実施形態について説明する。本実施形態では、上述した第 1 実施形態で説明した表示装置において、駆動制御手段である情報信号ドライバ 10 からの一画素当たりの出力と、一对の前記画素ユニット a, b に含まれる各画素電極 R、G、B (以下、適宜、Ra、Ga、Ba、Rb、Gb、Bbとする。) とが、一对一の関係で接続されていることを特徴とする。

【0050】

詳述すると、図 7 に示すように、本実施形態に係る表示装置では、上述した第 1 実施形態と同様に、R (赤)、G (緑)、B (青) の三色をそれぞれ表示する複数種の画素電極 R、G、B が、x y 平面上にマトリクス状に配置されるとともに、y 方向には同一色が配置され、x 方向には同一パターンを繰り返して配置し、ストライプ状をなしている。そして、この表示画面では、画素電極 R、G、B を各種一つずつ配列して画素ユニット a 及び b を形成し、隣接する一对の画素ユニットにより一画素を構成している。詳述すると、画素電極 Ra、Ga、Ba を隣接配置することにより画素ユニット a を形成し、画素電極 Rb、Gb、Bb を隣接配置することにより画素ユニット b を形成し、これら隣接する画素ユニット a 及び b により一つの画素データを表示する。

【0051】

この表示画面の具体的な構成を図 8 に示す。同図に示すように、表示装置では、液晶パ

ネル基板上において、図面上水平方向に配線され、走査信号ドライバ 11 に接続されたゲート線 G1、G2、…と、図面上垂直方向に配線され、駆動制御手段である情報信号ドライバ 10 に接続された情報信号線（ソース線）DRa、DGa、DBa…が互いに絶縁された状態で直交するように設けられており、その各交点において、アクティブ素子（スイッチング素子）である薄膜トランジスタ（TFT）を介して、画素電極に接続されている。すなわち、ゲート線 G1、G2、…は TFT のゲート電極に接続され、情報信号線 DRa、DGa、…は TFT のソース電極に接続され、画素電極は、TFT のドレイン電極に接続されている。

【0052】

そして、かかる構成において、走査信号ドライバ 11 によりゲート線 G1、G2、…が順次に走査選択されてゲート電圧が供給され、このゲート線の走査選択に同期して情報信号ドライバ 10 から各画素データに応じた情報信号電圧が、情報信号線 DRa、DGa、DBa…に供給され、TFT を介して各画素電極に印加される。このとき、一画素当たりの情報信号電圧が、画素ユニットそれぞれに含まれる同一色の画素電極に、同タイミング且つ同レベルで供給されることとなる。

【0053】

この情報信号電圧の印加タイミングを図 9 に示す。なお、同図においては、1 フレームを往復して走査する場合において、正フィールド及び負フィールドの、ゲート線及び情報信号線に対して印加される電圧レベルを示している。

【0054】

同図に示すように、本実施形態では、一画素当たりの情報信号電圧を、一对の画素ユニットそれぞれに含まれる同一色の画素電極に、同タイミングで供給する。すなわち、ゲート線 G1、G2、…が、順次に走査選択され、電圧が印加され、このゲート線に対する印加のタイミングに同期させて、各画素電極 Ra、Ga、Ba、Rb、Gb、Bb に対し、情報信号線 DRa、DGa、…を介して、同レベルの情報信号電圧が印加されている。

【0055】

以上説明した本実施形態に係る表示装置 3 及びスロットマシン 1 によれば、隣接する一つの画素ユニット a 及び b にそれぞれ含まれる同一色の画素電極 Ra、Ga、Ba、Rb、Gb、Bb に、一画素当たりの情報信号を供給するため、一画素を一对の画素電極（Ra、Rb）、（Ga、Gb）、（Ba、Bb）で表示することが可能となる。この結果、本実施形態に係る表示装置 3 及びスロットマシン 1 によれば、図 1 に示すように、既存の画像データのデータ量を増大させることなく、画素ユニットのピッチ P を従来の約 1/2 とすることが可能となり、上述した第 1 実施形態で説明した関係式（1）や（2）の関係を維持しつつ、画素の精細化を図ることができる。

【0056】

また、本実施形態に係る表示装置 3 及びスロットマシン 1 によれば、画素電極 Ra、Ga、Ba、Rb、Gb、Bb は、xy 平面上にストライプ状に配置されているため、画素電極を他の配列形態、例えばデルタ配列やモザイク配列とした場合と比較して、斜め線を表示した際の画像の滲みを低減することができ、画像の品質を向上させることが可能となる。

【0057】

〔第 3 実施形態〕 次いで、本発明の第 3 実施形態について説明する。本実施形態では、上述した第 1 実施形態及び第 2 実施形態で説明した表示装置において、駆動制御手段である情報信号ドライバ 10 からの一画素当たりの出力と、一对の前記画素ユニット a、b に含まれる各画素電極 Ra、Ga、Ba、Rb、Gb、Bb とが、一对多の関係で接続されていることを特徴とする。

【0058】

また、本実施形態に係る表示装置では、上述した第 1 実施形態と同様に、表示画面は、R（赤）、G（緑）、B（青）の三色をそれぞれ表示する複数種の画素電極 R、G、B が、xy 平面上にマトリクス状に配置されるとともに、y 方向には同一色が配置され、x 方向には同一パターンを繰り返して配置し、ストライプ状をなしている（図 7 参照）。そし

て、この表示画面では、画素電極 R、G、B を各種一つずつ配列して画素ユニット a 及び b を形成し、隣接する一対の画素ユニットにより一画素を構成している。詳述すると、画素電極 R a、G a、B a を隣接配置することにより画素ユニット a を形成し、画素電極 R b、G b、B b を隣接配置することにより画素ユニット b を形成し、これら隣接する画素ユニット a 及び b により一つの画素データを表示する。

【0059】

この表示画面の具体的な構成を図 10 に示す。同図に示すように、液晶パネル基板上において、図面上水平方向に配線され、走査信号ドライバ 11 に接続されたゲート線 G1、G2、…と、図面上縦方向に配線され、駆動制御手段である情報信号ドライバ 10 に接続された情報信号線（ソース線）DR、DG、DB…が互いに絶縁された状態で直交するように設けられており、その各交点において、アクティブ素子（スイッチング素子）である薄膜トランジスタ（TFT）を介して、画素電極に接続されている。

10

【0060】

そして、各情報信号線 DR、DG、DB…は、その途中で分岐され、情報信号ドライバ 10 からの一画素当たりの出力と、一対の画素ユニット a、b のそれぞれに含まれる同一色の画素電極とが一対 2 の関係で接続されている。すなわち、本実施形態においても、隣接する一対の画素ユニット a、b により一画素が構成されるとともに、情報信号線 DR が画素電極 R a 及び R b に、情報信号線 DG が画素電極 G a 及び G b に、情報信号線 DB が画素電極 B a 及び B b に接続されている。

【0061】

20

そして、かかる構成において、走査信号ドライバ 11 によりゲート線 G1、G2、…が順次に走査選択されてゲート電圧が供給され、このゲート線の走査選択に同期して情報信号ドライバ 10 から各画素データに応じた情報信号電圧が、情報信号線 DR、DG、DB…に供給され、TFT を介して各画素電極に印加される。

【0062】

このとき、情報信号ドライバ 10 からの一画素当たりの出力と、画素ユニット a、b のそれぞれに含まれる同一色の画素電極とが一対 2 の関係で接続されているため、一画素当たりの情報信号電圧が、画素ユニットそれぞれに含まれる同一色の画素電極に、同タイミング且つ同レベルで供給されることとなる。

【0063】

30

以上説明した本実施形態に係る表示装置 3 及びスロットマシン 1 によれば、隣接する一つの画素ユニット a 及び b にそれぞれ含まれる同一色の画素電極 R a、G a、B a、R b、G b、B b に、一画素当たりの情報信号を供給するため、一画素を一対の画素電極（R a、R b）、（G a、G b）、（B a、B b）で表示することが可能となる。

【0064】

特に、本実施形態では、情報信号線 DR、DG、DB…により、情報信号ドライバ 10 からの一画素当たりの出力と、一対の画素ユニット a 及び b のそれぞれに含まれる同一色の画素電極（R a、R b）、（G a、G b）、（B a、B b）とを一対多の関係で接続するため、既存の情報信号ドライバ等の駆動制御手段の出力端子を増大させる等の改良を要することなく、且つ、既存の画像データのデータ量を増大させることなく、画素ユニットのピッチ P を従来の約 1/2 とすることが可能となり、上述した第 1 実施形態で説明した関係式（1）や（2）を満たしつつ、画素の精細化を図ることができる。

40

【0065】

また、本実施形態に係る表示装置 3 及びスロットマシン 1 によれば、画素電極 R a、G a、B a、R b、G b、B b は、x y 平面上にストライプ状に配置されているため、画素電極を他の配列形態、例えばデルタ配列やモザイク配列とした場合と比較して、斜め線を表示した際の画像の滲みを低減することができ、画像の品質を向上させることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0066】

【図 1】第 1 実施形態に係る表示装置の表示画面を模式的に示す説明図である。

50

【図 2】第 1 実施形態に係る表示装置の内部構成を示す構成図である。

【図 3】第 1 実施形態において、遊技者の画素に対する感度を縦軸にとり、遊技者の視野角 1 度当たりの画素線の本数（本／deg）を横軸に対数表示したグラフ図である。

【図 4】第 1 実施形態に係るスロットマシンの外観を示す斜視図である。

【図 5】第 1 実施形態に係るスロットマシン内部に備えられた制御部の構成を示すブロック図である。

【図 6】第 1 実施形態に係る画素ユニットの配置形態の変更例を示す模式図である。

【図 7】第 2 実施形態に係る表示装置の表示画面を模式的に示す説明図である。

【図 8】第 2 実施形態に係る表示装置の内部構成を示す構成図である。

【図 9】第 2 実施形態に係る表示装置における情報信号電圧の印加タイミングを示すタイミングチャートである。 10

【図 10】第 3 実施形態に係る表示装置の構成を示す構成図である。

【符号の説明】

【0067】

α…補正値

R, B, G…画素電極

DB, DG, DR…情報信号線

G1～G3…ゲート線

P…画素ユニットのピッチ

a, b…画素ユニット

d…想定距離

1…スロットマシン

1a…メダル受け皿

2…遊技面

3…透明液晶ディスプレイ

3a…リール表示窓

4…スピーカ

5…ランプ

6…操作スイッチ部

7…制御部

10…情報信号ドライバ

11…走査信号ドライバ

71…主制御回路、

72…副制御回路

73…サブマイクロコンピュータ

74…サブCPU

75…プログラムROM 76…ワークRAM

77…INポート

78…音源IC

79…パワーアンプ

80…OUTポート

81…画像制御回路

82…画像制御CPU

83…画像制御ワークRAM

84…画像制御プログラムROM

85…INポート

86…画像ROM

87…ビデオRAM

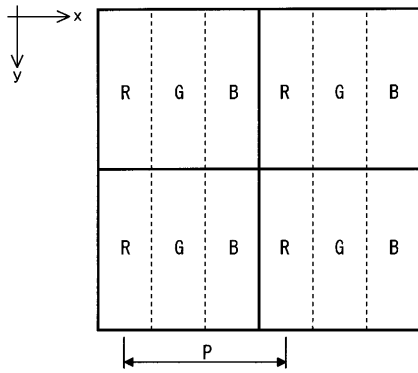
88…画像制御IC

20

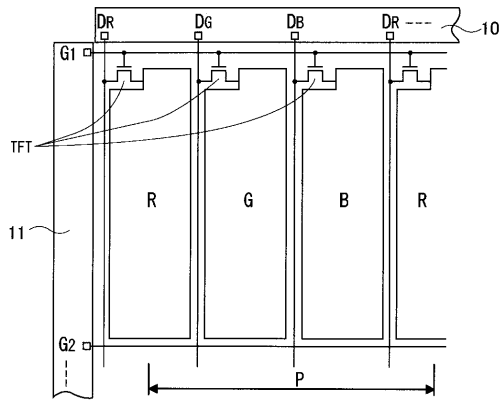
30

40

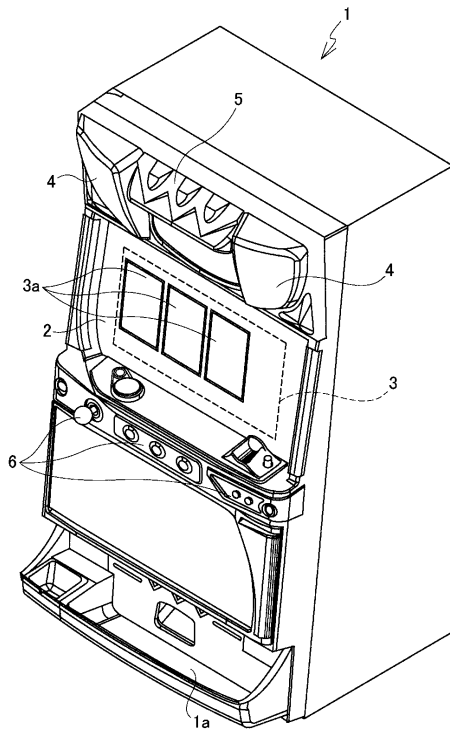
【図 1】



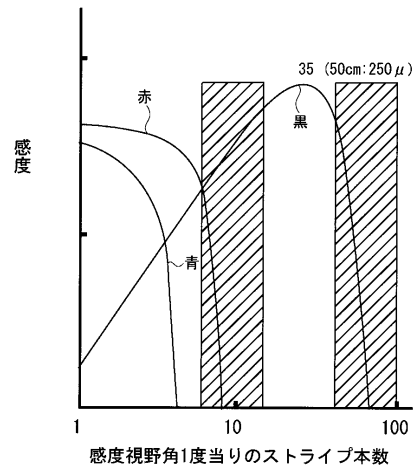
【図 2】



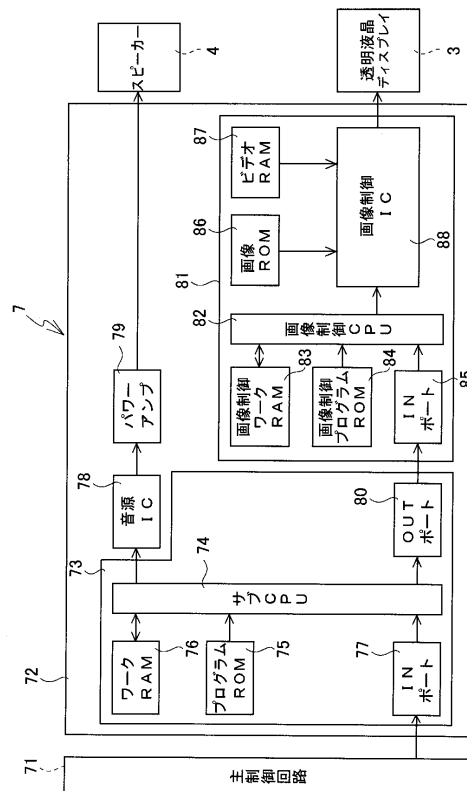
【図 4】



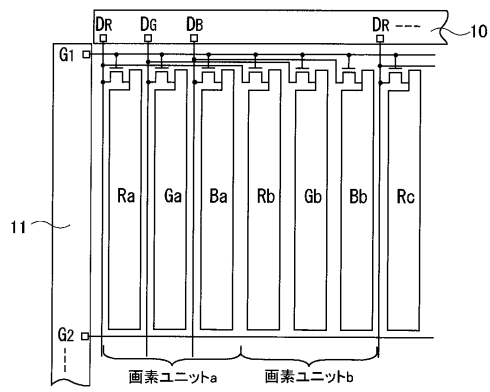
【図 3】



【図 5】



【図 10】



フロントページの続き

(74)代理人 100098327

弁理士 高松 俊雄

(72)発明者 野中 誠之

東京都江東区有明 3 丁目 1 番地 2 5

F ターム(参考) 2C088 BC22 BC25

2H088 EA22 KA30 MA01 MA20

5G435 BB12 EE13